

「ブラック・ジャックセミナー」を開催しました

消化器・総合外科 科長 田島 義証
たじま よしつぐ

当院では、「将来の医療人を育む」ことを目的として毎年10月(土曜)に中学生を対象とした「ブラック・ジャックセミナー」を行っています。今回は5回目となりますが、10月22日に開催し、中学2年生を中心に20名が参加してくれました。附属病院の手術室を開放し、私達外科医が日頃行っている手術時の手洗いやガウン装着、縫合・結紮、電気メスや超音波凝固切開装置を用いた腫瘍摘出術(鶏肉に埋め込んだゴム塊を摘出する)、自動縫合器・吻合器を用いた胃切除術と消化管再建(スポンジで作成した胃を切除し、縫合器を用いて再建する)、腹腔鏡手術トレーニングボックスによる鉗子操作、シミュレーターを用いた胆嚢摘出術、気管内挿管による救命救急医療等の擬似体験を通じて、最新の医療にふれる機会を提供させて頂いています。はじめは緊張した面持ちの生徒さん達も、セミナーの進行に伴って次第にリラックスし、真剣な眼差しで一生懸命に取り組んでくれました。修了式では「未来の医師認定書」をひとりひとり手渡しますが、皆、最高の笑顔を見せてくれました。何よりも尊い「人の命」を救う医師・看護師の仕事に触れることで、ひとりでも多くの子ども達が将来の日本の医療を支える志を持つきっかけとなれば幸いです。10年後、「ブラック・ジャックセミナーを契機に医学を目指した」若者達と一緒に仕事をできることを楽しみにしています。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

12月15日～1月14日		対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生			
開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12/15(木)	9:30～11:30	平成28年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来・中央診療棟3 階 カンファレンスルームだんだん	一般	がん患者・家族・ヘルパー
12/16(金)	18:00～	第107回病態生化学セミナー 哺乳類の発生のエピジェネティック制御	図書館3 階 視聴覚室	医療 本学	病態生化学講座
12/17(土)	14:00～17:15	平成28年度 看護学科と看護部との連携・協働による 「がん看護実践者」育成プロジェクト研修会アピラ ンスケアを知って、社会で生きる患者さんを支えよう	看護学科棟1 階 N11番講義室	医療 本学	看護部・看護学科
12/25(日)	13:00～16:00	神在りの園 がんメディカルカフェ	みらい棟4 階ギャラキシー	一般	がんアロエショナル養成 基盤推進プロジェクト事務局

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

News



CONTENTS

- ・前立腺がんに対する島根県唯一の密封小線源治療装置が新しくなりました
- ・3台目のMRIが導入されました
- ・「ブラック・ジャックセミナー」を開催しました
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

前立腺がんに対する島根県唯一の 密封小線源治療装置が新しくなりました

放射線治療科 科長

いのまた たいすけ
猪俣 泰典

前立腺がんに対する放射線治療は大きく分けて外部照射（IMRT）と密封小線源治療があります。密封小線源治療は針を前立腺内に挿入した後に①一時的にイリジウム 192 を前立腺内に送り込んで照射する方法と、②ヨード 125 が封入されたシードを永久に前立腺内に留置する方法があります。今回、更新されたのは②の方法を行うための装置で、島根県内唯一となります。

シードを前立腺内に留置するとシードから少しずつ放射線が出て前立腺に照射されます。周囲の人への被ばくは心配ありません。この治療法の最大の利点は治療期間が短いことで、通常は 2 泊 3 日の入院で完了します。シード治療に最も適した患者さんは「低リスク群と中リスク群の一部」の方です。シードの必要数はあらかじめプレプランを行って決めています。通常は 70-80 個程度を刺入します。

今回更新された装置によりこれまでシードをひとつひとつ独立して留置していた従来法（図1左）からシードを連結してひとつの針状のものとして留置するリンクシード法が出来るようになりました（図1右）。連結に用いる素材は刺入後 5-6 カ月で吸収・消失します。この方法の利点はシードの留置後にシードが動いて前立腺より離れた部位に移動すること（migration）を防げることです。そのためにこれまで前立腺外に留置できなかったシードを前立腺外にも留置することが出来ます。これによりがんが精嚢や前立腺の被膜外に及んでいる可能性のある患者さんにも行うことが可能となりました（図2）。

図1 従来法とリンクシード法

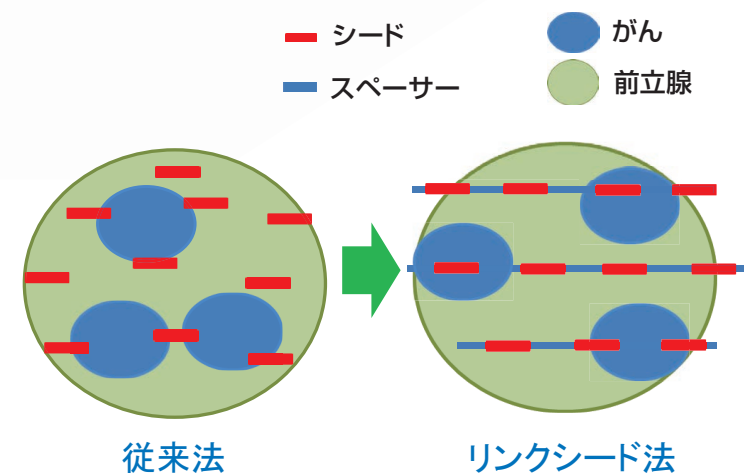
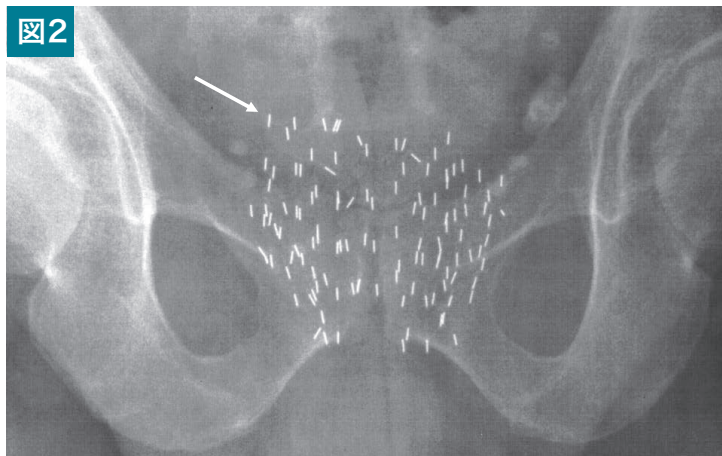


図2



前立腺内にリンクシードによるシード留置例。
矢印のシードは近位の精嚢内に意図的に留置されています。

問合せ先 放射線治療科 TEL:0853-20-2582

3台目のMRIが導入されました

放射線部 部長

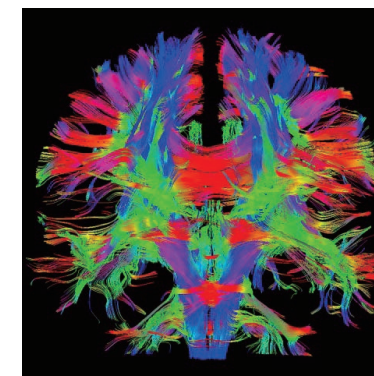
きたがき はじめ
北垣 一

装置はドイツ シーメンス社製 MAGNETOM Prisma、磁場の強さは 3.0T（テスラ）で、12 月から 1.5T×1台、3.0T×2 台の計3台で稼働しています。Prisma 3.0T の MRI は人体からの信号を収集する速度が通常より早く、画像に歪みが少なく更には磁石の部分が長く設計されている構造から、一般的な 3.0T MRI よりも磁場の安定性が高く、最高スペックの画像が提供できる装置で、自動車でたとえると普通乗用車とスーパーカーくらいの違いがあります。ですから、1.5T MRI の撮影では指摘できなかった血管病変や腫瘍病変などを見つけることも可能となりますし、最新の MRI ならではの静音化技術から沈静下で行なう小児の検査、大きい音が苦手な患者さんにも優しい検査環境を提供できます。また、従来の 3.0T では 1.5T に比べ体内に送信する電波の周波数が高く、体の中心部に電波を送るのが難しいため、満足のいく画像が得られませんでした。Prisma 3.0T MRI ではマルチトランスミット技術（多方向からの電波送受信技術）でこの問題を解決し、従来と同様の撮影時間で、県内他施設では撮影できない大学病院ならではの高精度画像と技術を提供することが可能となりました。

3.0T という磁石は 1.5T の MRI より2倍の磁力を持っていることから、患者さんの体内金属や検査室内への金属の持ち込みに、より一層注意する必要があります。検査依頼される場合には十分注意していただき安全な検査が出来るようにご協力よろしくお願い致します。



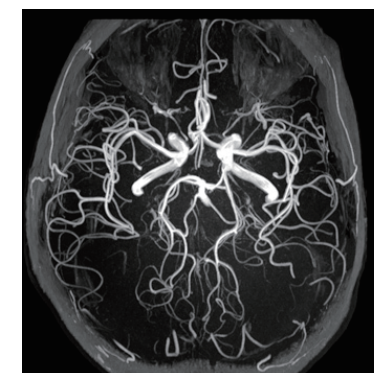
シーメンス社製 MAGNETOM prisma 3.0T



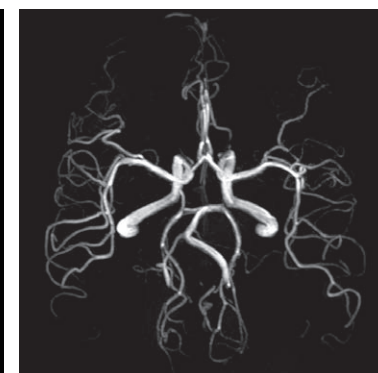
神経線維撮影



頸椎撮影



新規 3.0T

造影剤を使用しない脳血管撮影
従来の 1.5T

問合せ先 放射線部 MRI検査室 TEL:0853-20-2439



島大病院ニュース 2016年12月

ご報告

第2回全国医学生CPR選手権大会で “Team SCOP”優勝

SCOP顧問 クリニカルスキルアップセンター長 かりの けんじ
狩野 賢二

本学医学部医学科5年生の5名（吉岡、平井、三宅、長野、野津）が、“Team SCOP”として第2回全国医学生CPR選手権大会に挑戦しました。今年の同大会は、全国7ブロックの予選に28チームが参加して14チームが決勝に進みました。Team SCOPは、8月27日に呉共済病院で開催された中国・四国ブロック予選を1位の成績で突破して、10月15日の慶應義塾大学 信濃町キャンパスで開催された決勝大会へ進みました。決勝大会は、胸の硬さの異なるレサシアンで成人CPR2回とレサシベビーによる乳児CPR1回を、蘇生ガイドラインに沿ったQCPRシステムで評価されます。また、AED使用時に適切なタイミングで胸骨圧迫や人工呼吸を中断したか審査員から評価されます。Team SCOPは、乳児CPR部門で102点と満点を超える点数を挙げて、総合得点が289.61点という高得点で総合優勝を果たしました！

SCOPはSkill Conquest and Output Programの略で、2012年から学生サークル活動として、医学生が自ら医療手技を学び他者へ伝えるプログラムを実践しています。

昨年の第1回全国医学生CPR選手権大会では成人CPRは1位でしたが、総合では優勝を逃しました。その時のメンバーである現6年生が今年のTeam SCOPの5名を指導して雪辱を果たしました。本学医学部の素晴らしい伝統の一つが育っています。

第2回全国医学生CPR選手権
決勝戦の総合順位

- 1位 島根大学 (289.61点)
- 2位 帝京大学 (288.65点)
- 3位 東京慈恵会医科大学 (287.34点)
- 4位 高知大学
- 5位 大阪医科大学
- 6位 宮崎大学
- 7位 弘前大学
- 8位 久留米大学
- 9位 三重大
- 10位 慶應義塾大学
- 11位 岐阜大学
- 12位 千葉大学
- 13位 近畿大学
- 14位 昭和大学



第2回全国医学生CPR選手権大会で優勝した“Team SCOP”
(左から) 医学科5年生の吉岡祐樹、平井幸太郎、三宅悠介、長野奈津子、野津百合子



島大病院ニュース 2016年12月

お知らせ

患者図書室という医療サービス

医学部附属病院 患者図書室ふらっと

ふらっとは2005年に開設され、今年で11年目となりました。蔵書は4000冊を超え、一般向け医学書から、話題のベストセラー小説、美しい絶景の写真集、地元に関連した読み物や、絵本児童書など様々なジャンルの本が揃っています。また、17:15だった開室時間を10月からは21時まで延長しました。

今日も入院、外来の患者さん、ご家族が来室され、本を手にとり思い思いに過ごしておられます。「自分の病気について調べたい」という患者さんはもちろん、「気晴らしになるような小説を読みたい」、「なにかお勧めの面白い本を教えてください」、「外来受診の待ち時間中に読みたい」等々、様々な目的で利用されています。

私たちは、普段の暮らしの中で、当然の権利として公共図書館を利用できます。しかし、入院中は中断せざるを得ません。

「患者は病気治療中も市民であり続け、市民としての諸権利を持つ。患者が市民として教育、文化、医療サービスを受ける権利を行使できる医療環境づくりが必要である。」

(日本病院患者図書館協会会長 菊地祐「病院患者図書館 その役割と必要性」より)

今後ともより良い医療環境づくりの一端を担うべく、専任司書常駐を生かした質のよい細やかなサービスの提供を心がけたいと思います。



病院患者図書室
ふらっと

ご報告
島大病院ニュース

平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ
島大病院ニュース

平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2016年12月

お知らせ

がん患者・家族サポートセンターをご利用ください

がん患者・家族サポートセンター センター長 すずみや じゅんじ
副センター長 鈴宮 淳司
まきはら たかこ
榎原 貴子

がん患者・家族サポートセンターでは、がん患者さんやそのご家族の不安や気がかりが少しでも軽減されるようさまざまな取り組みを行っています。

◆ハローワーク出雲との協働による「長期療養者のための就職相談会」の開催

がん、糖尿病、肝疾患など、長期に療養が必要な患者さんが、病院内で気軽に『働くこと』の相談ができることを目的として実施しています。

「通院治療しながら働きたい」、「病状・体力にあった仕事を見つけたい」、「仕事復帰に不安」などの相談に、ハローワーク出雲の就職支援ナビゲーターとがん専門相談員が連携して対応いたします。

【開催日時：毎週木曜日 10：00～12：00】



就職支援ナビゲーター（中央）とがん専門相談員

◆「がんピアサポーター相談会～がん治療体験者と話してみませんか～」の開催

「がんピアサポーター」とは、がん治療体験者が、正しい知識を身につけ、自分の体験を活かし同じ“仲間”として、患者さんご家族をサポートする人です。がんピアサポーターによる相談会を県内各病院で実施しています。平成28年度これまでに、のべ32名の患者さん・ご家族が相談会を利用され、「気持ちを聴いてもらって楽になった」、「勇気をもらった」との感想をいただいています。

平成28年度がんピアサポーター相談会日程

日 時	場 所
12月12日（月） 11:00～13:00	益田赤十字病院
12月15日（木） 9:30～11:30	島根大学医学部附属病院
1月15日（日） 9:30～11:30	島根大学医学部附属病院
1月24日（火） 13:30～15:30	松江赤十字病院
2月 8日（水） 9:30～11:30	浜田医療センター
2月14日（火） 9:30～11:30	雲南市立病院
2月15日（水） 9:30～11:30	島根大学医学部附属病院
2月21日（火） 9:30～11:30	松江市立病院
3月 3日（金） 10:30～12:30	島根県立中央病院
3月13日（月） 11:00～13:00	益田赤十字病院
3月15日（水） 9:30～11:30	島根大学医学部附属病院



がんピアサポーター相談会の様子

いずれも、お問い合わせは、がん患者・家族サポートセンターまで。
がん患者・家族サポートセンターでは、**平日8:30～17:00**がん専門相談員がさまざまな相談に対応しています。
お気軽にお尋ね下さい。

問合せ先 **がん患者・家族サポートセンター 0853-20-2518・2545**



平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2016年12月

お知らせ



※画像はイメージです

入院児童等家族宿泊施設 「だんだんハウス」を整備します

当院では、入院中の小児患者さんに付き添うご家族の経済的な負担を減らすため、また、術前術後の不安を抱きやすい小児患者さんの安心にも繋げるため、患者さん、ご家族のための宿泊施設を敷地内に建設することといたしました。

当院の特徴として、新生児外科の治療施設が島根県内では当院のみであること。また、先天性心疾患の治療においても本格的な手術を実施し、小児心臓手術では山陰の拠点となり鳥取県など県外を含む遠方からの小児患者さんを受け入れております。このため、遠方からの入院患者さんに付き添うご家族は、入院が長期化し費用負担が大きくなることもあるため、国、島根県からの交付金の助成を受け宿泊施設の整備を計画したところ です。

施設は、身障者対応1室を含み全5室を備えた平屋1棟を新築することとし、12月に着工し、来年4月のオープンを目指しております。各部屋にユニットバスなどを配備し、患者さんの兄弟らが遊べるプレイルームを備えた共有スペースを設けることとしております。



平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



参加診療科

神経内科、小児科、リハビリテーション科

1. 神経内科(60分程度)

テーマ:「認知症の診断と治療」

講師:助教 三瀧真悟、看護師 若槻律子、作業療法士 黒田陽子

2. 小児科(60分程度)

テーマ:「子どもの在宅はやりがいと楽しみがある」

講演1:「子どもの在宅医療の現状と課題」講師:教授 竹谷 健

講演2:「子どもの在宅の経験から」講師:在宅を行われている家族

講演3:「病院と地域を結ぶ切れ目のない連携」講師:小児センター 看護師

講演4:「退院を見据えて行うリハビリテーションとは?」

講師:リハビリテーション部 主任理学療法士 道端ゆう子

3. リハビリテーション科(60分程度)

テーマ:「ロコモティブシンドロームの診療に必要な
知識と技術」

講演1:「ロコモティブシンドロームの診療」講師:助教 酒井康生(15分)

講演2:「ノルディック・ウォークを用いた運動療法」講師:准教授 馬庭壯吉(10分)

実技:「ロコモティブシンドロームの評価と運動療法」講師:理学療法士(20-30分)

実技指導:療法士長 江草典政

アシスタント:理学療法士 野口瑛一、山崎竜司、佐藤慎也、福谷早耶香

2016年

12月18日(日)

13:00~16:00

島根大学医学部 臨床講義棟 臨床小講堂

(〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1)

対象者:地域医療、地域包括ケア、在宅医療に従事
する医師、看護師、理学療法士、作業療法士、ケア・
マネジャー、行政職、事務職、医療系学生 等どなた
でも参加できます。

主催:島根大学医学部附属病院 キャリア形成支援部門
(卒後臨床研修センター、地域医療政策学講座、地域医療教育学講座、総合医療学講座)

島根の在宅医療を考える 実践セミナー

参加費無料

地域包括ケア シンポジウム

地域医療構想に基づく地域包括ケア
—総合診療医の役割、大学の役割—

2016年

12/23(金・祝日)
12:30~15:00

島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー (〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1)

参加費無料

対象者:地域医療、地域包括ケア、在宅医療に関連
する医師、病院管理者、病院職員、
初期・後期研修医、大学院生、医学生、県市町村の
行政職等どなたでも参加できます

■プログラム

12:30~ 開催挨拶

12:40~ 第1部 基調講演

講演1 演題:「わが国の地域包括ケアのあるべき姿」

演者:茨城県保健福祉部長 松岡 輝昌

講演2 演題:「三重県の地域医療、地域包括ケアにおける三重大学の役割」

演者:三重大学大学院医学系研究科 臨床医学系講座家庭医療学分野 教授 竹村 洋典

13:45~ 第2部 報告およびディスカッション

テーマ「地域包括ケアシステムにおける、総合診療医と大学の役割」

【シンポジスト】

島根県健康福祉部医療企画監 知念 希和

島根県医師会理事 櫻井 照久

神戸大学大学院医学研究科 医学教育学分野 地域医療教育学部門 特命教授 岡山 雅信

兵庫医科大学 内科学 総合診療科 主任教授 新村 健

島根大学医学部 総合医療学講座 教授 石橋 豊

【コメンテーター】

茨城県保健福祉部長 松岡 輝昌

三重大学大学院医学系研究科 臨床医学系講座家庭医療学分野 教授 竹村 洋典

14:55~ 閉会挨拶

実施部局:島根大学医学部附属病院 キャリア形成支援部門
(卒後臨床研修センター、地域医療政策学講座、地域医療教育学講座、総合医療学講座)

問合せ先 島根大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター(事務担当:渡部・園山) TEL:0853-20-2006 E-mail:sotsugo@med.shimane-u.ac.jp



島大病院ニュース 2016年12月

ご報告



医師会・歯科医師会会員対象の人間ドックを実施して

臨床検査科 科長 ながい 長井 あつし 篤

一昨年より医師会会員様対象の人間ドックを始め、昨年は歯科医師会会員の先生方にも対象を拡げ、多くの先生方に受検頂きましたこと、心より御礼申し上げます。先生方にご協力頂いて得られたアンケート内容を反映させ、できるだけご要望に応えられるように当院職員で協力して行いました。先生方が受検しやすいように、日曜開催とし、概ねご好評頂いたように思います。年々認知され今年もさらに多くの先生方に受検頂きました。

スケジュール面では、医療サービス課、光学医療診療部、放射線部、検査部スタッフが協力して事前に協議し、綿密な検査スケジュールを組むことで、スムーズに検査を回って頂くように準備しましたが、少しお待ち頂く場面も出ました。今後も改善を加え、満足度の高い人間ドックを実施していきたいと思ひます。検査項目ばかりでなく検査内容についても気を配り、専門医によるハイレベルな責任ある報告を心がけていく所存です。

私たち一同は、大学病院診療レベルの高水準な検査評価を行い、先生方にご満足頂けるドックが行えると考へています。来年度以降も先生方のご意見を汲入れながら継続実施したいと思ひますので、是非受検頂き、健康を維持しながら日々の診療に貢献頂きますようお願いします。来年もお待ちしております。

【26～28年度】医師会人間ドック実施件数

項 目	26年度	27年度	28年度	合計
・基本項目	10	44	59	113
・癌コース(胃癌ドック)	9	29	33	71
・癌コース(乳癌ドック)	1	8	8	17
・癌コース(胸部ドック)	3	20	20	43
・癌コース(上腹部ドック)	8	26	37	71
・動脈硬化コース(心臓ドック)	2	21	21	44
・動脈硬化コース(動脈硬化チェック)	2	23	25	50
・オプション項目(脳ドック)	6	25	25	56
・オプション項目(頸椎症ドック)	1	7	4	12
・オプション項目(腰椎症ドック)	1	7	4	12
・オプション項目(骨粗鬆症ドック)		10	6	16
・オプション項目(生活習慣遺伝子ドック)			17	17
合 計	43	220	259	522

- ・26年度より医師会休日ドック開始
26年度:9月14日・10月5日実施
27年度:9月27日・10月25日・11月1日実施
28年度:7月31日・8月21日・10月2日実施
- ・27年度より歯科医師会も追加
- ・28年度より生活習慣遺伝子ドック開始



問合せ先 臨床検査科 TEL & FAX : 0853-20-2559



平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2016年12月

ご報告

院内災害訓練を実施しました



高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき 渡部 広明

近年、地震などの自然災害が日本全国で多発しております。先日発生した鳥取県中部地震は隣県での発災ということもあり、島根県で発生してもおかしくないことを感じさせるものでした。こうした甚大な災害が発生した際には多数の傷病者が発生することが想定されますが、多くの傷病者を受け入れ一人でも多くの尊い生命を守ることが当院の重要な役割でもあります。

この度、当院では 11 月 12 日(土)に中国地区 DMAT (Disaster Medical Assistance Team: 災害時派遣医療チーム)

実働訓練と連動して甚大な地震災害発生を想定した院内災害訓練を実施いたしました。本取り組みは当院開設以来初のことですが、DMAT 隊と連動した本格的な大規模訓練となりました。島根県東西部においてマグニチュード 7.3 の連動地震(震度 6 弱)が発生したとの想定で訓練が実施されました。当院は DMAT 参集拠点本部となり、中国地区の DMAT 隊の受け入れとその指揮を行う訓練を行いました。また院内におきましては、井川病院長を災害対策本部長とする院内災害対策本部を設置し、院内災害対策マニュアルに則り院内の被災状況および傷病者の発生状況を迅速に把握して、災害時に行うべき指揮活動の訓練を行いました。これと連動して多数の傷病者が搬送されることを想定した救護活動訓練も実施いたしました。附属病院正面玄関にトリアージセンターを設置し、赤、黄、緑、黒の 4 つのエリアにトリアージを行い、救護活動を行いました。当日は島根県消防学校の学生さんに傷病者役としてご協力いただき、約 80 名程度の傷病者に対して臨場感のあるトリアージと救護所活動を体験することができました。訓練には多くの医師、看護師、その他の医療職種、事務職員、学生が参加し、大学を挙げての大規模訓練となりました。訓練終了後の振り返りでは、「災害対策本部の設置の手順が確認できて良かった」、「トリアージの実践が理解できた」などの意見が多く聞かれました。しかし、トリアージエリアの配置や連絡伝達方法など改善すべき点も明確となり、今後さらによりよいマニュアルの改訂に向けての問題点の抽出が可能となり、実りの多い災害訓練となりました。引き続き地域の災害医療の拠点としての機能を果たせる大学病院を目指して努力して参ります。



平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2016年12月

ご報告



平成28年度消防訓練を実施しました

当院は、消防法に基づく特定防火対象物（不特定多数の者が出入する施設等）に指定されており、年2回以上の消防訓練の実施が義務付けられています。

今回は、11月15日（火）に実施しました本年度2回目の訓練（参加者80名）について報告します。訓練は、夜間に発生した病院火災に対応した「通報・連絡」、「初期消火」、「入院患者さんの避難誘導」を実施し、自主防火体制の強化と防火に対する意識の高揚を図ることを目的としており、出雲市消防本部の協力・指導を得て行ないました。

火災報知機の異状発生警報と同時に、火災現場の病棟看護師が火災の発見、通報、初期消火を行い、看護師長当直者の指示により、医師当直者、夜勤看護師、看護師宿舎入居者が入院患者さんの避難誘導を行ないました。自衛消防隊本部は病棟南側駐車場に設置し、出雲市消防本部と連携し、情報の収集・確認等を行ないました。また、逃げ遅れ患者さん1名が屋上に避難した想定で、消防本部のはしご車で地上9階から救出する訓練も行いました。

訓練終了後出雲市消防本部の講評があり、避難終了までの時間等おおむね良好であったものの、細部について、情報連携の取り方に工夫を要することや、シナリオ重視ではなく実際の状況から行動する対応力がほしい等の指摘がありました。

当院としては、毎年訓練を体験することで、まずは各職員が実際の火災への対応力を身に付けることを目的とし、今後もより良い訓練にしていきたいと思っています。



島大病院ニュース 2016年12月

ご報告



出雲土建㈱さんの作業風景



出雲市シルバー人材センターさんの作業風景

清掃ボランティアさん （出雲土建㈱・出雲市シルバー人材センター） にお世話になりました。



当院では、定期的に清掃ボランティアさんにお世話になり、草刈・清掃等の環境整備を行っていただいています。

今回は、去る10月15日（土）に行なっていただいた出雲土建㈱さん（世話人：石飛裕司氏）及び出雲市シルバー人材センターさん（世話人：吾郷 勲氏）2団体の活動をご報告します。

出雲土建㈱さんは、出雲サポート会の秋の奉仕活動の中で、毎年当院を担当していただいております。8時30分から10時までの間、総勢50名の多くの方々にお集まりいただき、南門から医学部会館西側駐車場・看護師宿舎南側駐車場周辺と広範囲の草刈、清掃を行なっていただき、南門付近を大変きれいにしていただきました。

出雲市シルバー人材センターさんも、毎年秋の奉仕活動を行なっていただいています。8時から9時30分までの間、総勢18名の方々にお集まりいただき、正門から道路側左右の石垣の歩道に伸びた蔦等の刈り取りを行なっていただき、終了後にはこちらも大変きれいにしていただきました。

地域のボランティア活動に支えられ、患者さんも快適な環境の中で気持ちよく治療を受けていただけることと思います。そして、当院も医療を通して地域貢献できるよう努力したいと思います。

出雲土建㈱、出雲市シルバー人材センターの皆さん、その他ボランティアの皆さん、いつも有難うございます。



平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2016年12月

ご報告

「えんや地区文化祭」に参加して

看護部長 かんた まりこ
神田 眞理子

11月6日(日)に当院のある塩冶地区の文化祭が開催されました。3年前より、本文化祭にあわせて健康相談や健康体操を男性看護師(当院の男性看護師は52名が活躍しています)が主体となって活動をしています。当日は曇り空でしたが、延べ人数で105名の参加がありました。この健康体操は出雲市が推奨している「いきいき体操」であり、大変好評でした。

当院は「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を掲げ、地域医療に貢献すべく活動をしています。看護部においては「地域に信頼される質の高い看護を提供」することを理念とし、地域社会から求められる大学病院の役割機能を果たすことも大きな方針として位置づけをしています。

今回の活動は、地域医療に貢献することを目的としています。今後は地域包括ケアの構築が推進され、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要になっていきます。当院も継続的に地域での活動を行い、地域に信頼される病院を目指し、地域の皆様と関わっていきたいと考えています。

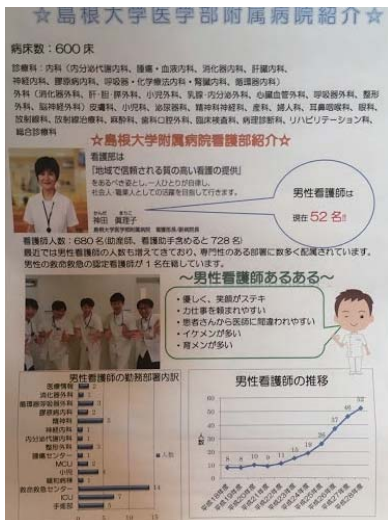
毎日骨骨(こつこつ)

いきいき体操

開催日: 11月6日(日)
時間: 午前10時～午後2時
場所: 塩冶コミュニティーセンター
内容: 健康体操(※いきいき体操)、健康相談
病院紹介など



主催: 島根大学医学部附属病院男性看護師会



島大病院ニュース 2016年12月

ご報告

「ランチョンセミナー」を開催しています

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき
佐野 千晶

地域医療支援学講座では、平成25年度から「ランチョンセミナー」を開催しています。

講師は、当院で活躍している若手医師からベテラン医師、また臨床医学系講座だけでなく基礎医学系講座や特別診療部門など幅広い分野の先生方をお願いし、20名前後の参加者で、和やかで楽しいセミナーとなっています。昼休みの30分間を利用し、これまでの経験や医師としての仕事の醍醐味などのお話に参加学生から、リアルな話を聞いて自身のキャリア形成や将来への方向性について参考になったといった感想が寄せられています。学生にとって、これまで接点がなかった先輩とのつながりが持てる貴重な場であり、将来、医療へ貢献する具体的なイメージをもてるのではないかと思います。

ご講演頂ける講師の先生方を随時募集しています。これからの医療の担い手となる若い世代を盛り上げていくためにご協力下さい。



テーマ: “学生に伝えたいこと”

学生時代にどのようなことを考えていたか
学生時代に行っておいたほうが良いと思うこと
初期研修に思うこと
診療科を選んだ理由、良かったと思うこと
今思うこと 等なんでもありのお話を先輩のメッセージとして送ってもらう

4月	Acute Care Surgery講座	渡部 広明 教授
5月	乳腺・内分泌外科	百留 美樹 助教
6月	リハビリテーション部	酒井 康生 助教
7月	島根大学医学部総合医療学講座 大田総合医育成センター	本田 聡 准教授
9月	産科・婦人科	折出 亜希 学内講師
10月	神経内科	有竹 洵 医科医員
11月	皮膚科	中川 優生 助教
12月	麻酔科	藤原 辰也 医科医員

問合せ先 地域医療支援学講座 TEL: 0853-20-2558



平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成28年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2016年12月

ご報告

「知って、肝炎プロジェクト」で 出雲市内の高校に啓発活動を行いました



肝臓内科 科長 さとう しゅういち
佐藤 秀一

「知って、肝炎プロジェクト」スペシャルサポーターで、男性音楽グループメンバーの一人である手島章斗さん（21）が10月26日（水）、出雲市の長岡秀人市長を表敬訪問し、「若い世代に、肝炎の検診を受けて欲しい」とのメッセージを寄せました。

検診率が低いウイルス性肝炎に関して国は、2011年に肝炎対策基本指針を策定、

12年からはサポーターを全国に派遣し、健康診断などの機会を通じた肝炎ウイルス検査の受検や、肝炎の早期発見・早期治療を呼び掛ける「知って、肝炎プロジェクト」を進めています。啓発活動の決め手として厚生労働省が任命したのが、肝炎総合対策推進国民運動特別参与の杉良太郎さんであり、芸能界、スポーツ界からの大使やスペシャルサポーターです。

この日の表敬訪問では、手島さんが杉良太郎さんからのメッセージボードを長岡秀人市長に手渡したほか、市内の高校5校の校長先生に生徒に検診を受けて欲しいとするメッセージを託しました。

肝疾患診療連携拠点病院の当院では、後日、県の薬事衛生課の職員とともに、手島さんのメッセージを渡せなかった高校の校長先生へも訪問してメッセージを届けました。今後、出雲市内の8つの高校のすべての生徒および保護者への肝炎無料検査の啓発活動を行っていく方針です。



島大病院ニュース 2016年12月

ご報告

緩和ケア 市民公開講座

「つながる、緩和ケア」 ～がんと診断された時から在宅まで切れ目なく～ を開催しました



緩和ケアセンター センター長 なかたに としひこ
中谷 俊彦

11月23日（祝日）に臨床講義棟1階小講義室で、当院では初めての緩和ケア市民公開講座を開催いたしました。

基調講演として京都大学大学院人間・環境学研究科の佐藤泰子先生に、「バカボンパパに学ぶ苦しみの人間学～聞くこと、語ることの本当の意味～」のタイトルで、辛い思いをしている人に対して誰もが

できました。その中で「はなす」ことは、「話して、離して、放す」ことである、人の苦しみと言葉の関係を説明して患者さんに寄り添うために、より良い聴き手になることで人は支えられることなどを伝えられました。寒い気候を吹き飛ばすような熱意ある関西系の講演で、笑いの中でも思わず共感してしまう内容にうなずかされ、最後はほろりと涙を誘う（すすり泣かれた方々もあり）エンディングで終わられました。

引き続いて後半は、当院ご利用の皆さまに、より良い緩和ケアを提供するために、当院の緩和ケア病棟をわかりやすくご紹介した後に、質問コーナーをもうけてご参加の皆さまからのご質問への回答を行いました。多くのご質問をいただき、有意義な質疑応答ができ、緩和ケア病棟のご理解が深まるひとときとなりました。ご参加いただいた皆さま、スムーズな運営にご尽力いただいたスタッフ皆さまにこの場をお借りして深謝いたします。

